

第 8 回 新宮ダムの堤体挙動等に関する技術検討会 審議結果

日時：平成 27 年 12 月 15 日（火）10:00～12:00

場所：大阪コロナホテル 本館 3 階会議室 310 号室

出席：阪田憲次座長、鎌田敏郎委員、佐竹正文委員、渡辺博志委員、佐々木隆委員

※河野広隆委員および石神孝之委員は都合により欠席

資料：資料 1 議事次第

資料 2 洪水吐きゲート操作性について

資料 3 堤体下流面の漏水について

審議内容

1. 洪水吐きゲート操作性について

平成 27 年 3 月に実施した変位抑制工の施工後のモニタリング結果についての審議を行い、次の指導・助言を得た。

ダム軸方向の堤体変位については、プラムライン及びトータルステーションの計測結果から対策工による抑制効果が現れていると考えられ、また、ゲート扉体と戸当たりの隙間計測結果からも同様の効果がうかがえる。なお、堤体に作用する荷重のうち温度荷重の扱いについては、今後検討していく必要があるとされた。

また、今回のモニタリング結果の報告は対策工施工後、半年程度のデータであるので、引き続きモニタリングを実施し、対策工の効果や異常の有無を確認するべきとされた。

2. 堤体下流面の漏水について

今年度実施する堤体下流面の漏水対策の施工方法について報告があり、継目が最も開く冬期に、超微粒子セメントを用いた注入により補修を行うことので了承を得た。

3. その他

次回検討会は、平成 28 年秋に開催を予定することとされた。

以 上